平成15年度共同研究活動報告書

平成15年度における本学の「音楽療法に関する臨床的研究」の主な研究実践活動は、以下のように報告いたします。

【共同研究者名】 木村　滋[1)]　重川　敬三[2)]　冨野　弘之[3)]　他５名

【研究課題名】 音楽療法に関する臨床的研究

【研究目的】 音楽による「癒し」を究明するため、定期的に研究会を開催するほか、音楽療法の実践を行ない普及活動を推進する。また、創作曲の普及活動を通してその有効性を検討する。

【研究実施報告】

１．定期的研究会の開催

（１）開　催　平成15年４・６・８・12月の下旬（土）　14：00～16：30

（２）会　場　日本赤十字秋田短期大学　合同講義室、他

（３）議題等

①平成15年度音楽療法フォーラム及び日本音楽療法学会東北支部第２回学術大会（４月）開催について

②会員の音楽療法活動について

戸田麻美会員より重度の痴呆老人を対象として回想法を中心とした音楽療法について報告。ＡＤＬの向上によるＱＯＬの向上をねらった実践を説明。

③平成14年度決算及び平成15年度予算について（６月）

④平成15年度音楽療法フォーラム内容について（決定事項）

・講演：遠山文吉　　・演奏：安部慶子（ヴァイオリン）、富山紀美子（ピアノ）

⑤会員の音楽療法活動について

諸橋有子会員より高齢者を対象としてクラッシックギター使用の対面式演奏よる音楽療法の実施報告

その課題は対面式での恐怖感を持つクライアントへの対応があげられた。

⑥平成15年度音楽療法フォーラム予算、講師演題等について（８月）

・会員の音楽療法活動報告（九島弘子会員による老人保健施設での音楽でのボランティア活動）

・使用楽器は、アコーディオン・キーボード、（対象者は）鈴、タンバリン、カスタネット等。回想法で実施時における季節・気候・自然を題材の歌の使用。

⑦16年度音楽療法フォーラム及び日本音楽療法学会東北支部第２回学術大会日程について（12月）

・日本音楽療法学会東北支部第２回学術大会　平成16年10月２日（土）、３日（日）

・講演（講師：貫行子）とシンポジウム

・平成15年度音楽療法フォーラム開催日時確定　平成16年10月３日（日）

・講演：栗林文雄（名古屋音楽大学教授）

・演奏：チェリスト桜井健（昭和音大講師）を中心の弦楽四重奏

・日本音楽療法学会東北支部第２回学術大会におけるセッション（音楽療法士の単位認定可）

１）副学長（介護福祉学科教授、英語担当・音響音声学専攻）　２）看護学科講師（スポーツ・健康科学）

３）事務部総務課長（音楽療法授業協力、作曲・編曲））

本研究活動報告は平成15年度共同研究費の助成を受けて行った「音楽療法に関する臨床的研究」に関する報告である。

２．各種研修会の実践

平成15年度における自治体、福祉団体から研修会等への派遣依頼による音楽療法実践は下記のように実践した。

（１）全国障害者問題研究会秋田支部　2003年度総会

主　　催：全国障害者問題研究会秋田支部
開催日時：平成15年６月15日（日）10：00～12：00
会　　場：県社会福祉会館３階
参 加 者：障害児８名
出 席 者：坂本　昌　冨野弘之
実践内容：楽器を持たせてそっと近づいていき小さい音を出し、対象の反応を観て、音で対応したら、もう少しずつ音を高くしていくことを何回か繰り返し、音による心身の伝達交流図る。音楽は興味を抱くような曲目を演奏し自由に楽器を鳴らさせ、一体感を感じとらせることを目的として、合図をしたら一斉に音を出すことを止めさせる（使用楽器は打楽器）。この際の即興演奏ではピアノの鍵盤を自由にたたかせ、その音に和音とリズムをつけて一つの曲を完成させる。子どもは自分の弾いた音が曲になった喜び、満足感と成就感を得させた。

（２）第23回山内村健康推進大会

主　　催：山内村、山内村国民健康保険
開催日時：平成15年９月７日（日）10：20～11：40
会　　場：山内村公民館講堂　　参 加 者：村民約150名　　出 席 者：坂本　昌　冨野弘之
実践内容：「歌は心のタイムカプセル」と題して回想法を中心に実施。一人々々の心のタイムカプセルの中には、同じ音楽が入っていない。参加者にあわせたピアノ曲（蘇州夜曲、湖畔の宿、リンゴの歌、カチューシャ、その他）の演奏により、自ら参加できる楽器演奏で皆で楽しみ自分表現による能動的音楽療法を実践する。全体のリズムに乗り気持ちのはずみと高揚感を感じ静かな曲（「里の秋」）の斉唱で終了する。

（３）音楽療法研修

主　　催：岩城町ボランティア連絡協議会（共催：わっこの会）
開催日時：平成15年12月11日（木）13：00～15：00
会　　場：岩城町「ウェーブ岩城」
参 加 者：30名（はまなす園、寿荘、広洋苑、社交ダンスサークル）
出 席 者：坂本　昌　冨野弘之
実践内容：音楽療法の機能中の「音楽を媒介にして個人間の意思疎通と健康促進を図る。導入の段階で音での挨拶をする、とにかく、好きなように音を出させる。始めと終わりは一緒にする。
高齢者には回想法で対応し、演奏曲目（お正月、リンゴの歌を演奏）にあった楽器（きよしこの夜：トライアングル、ツリーチャイム）を選択させ、最後は興奮を鎮め心を平常の現実に戻すため静かな曲で終了した。

（４）創作曲の普及活動

身体と精神の健康づくりに視点を置いた研究会の創作曲としては第四番目となる「日赤健康体操」（既創作曲「日赤太鼓」「日赤健康音頭」「日赤健康サンバ」））を創作した。歌詞と作曲は本学の職員によるものである（体操の創作は看護学科講師の重川敬三講師、歌詞・作曲は冨野弘之総務課長が担当）。曲想はポルカ調にアレンジし、ほのぼのと明るく楽しんで踊れる雰囲気に仕上げている。歌は本学ゴスペル＆ポピュラーミュージックサークルの学生に担当した。いつでも、どこでも簡単に体を動かすことができ、継続できることを狙いとした。当面講義等で使用しながら一般市民へも普及を図る。

＜創作解説及び楽譜は省略＞　　（文責　冨野弘之）